

クラウドでのデータ探索からエンロールメント・マネジメントへ Looker と Gemini の活用から「見える」こと

事例 日本大学

開催日時：2024 年 12 月 12 日（木）12:30～13:15 会場：B 会場

日本大学はわが国最大の総合大学。その学生数をデータ駆動型教育のメリットとすべきですが、従前は教学データのサイロ化が障壁となっていました。そこで、2022 年より全学一元的なデータ収集・分析基盤をクラウド上に構築し、エンロールメント・マネジメントに資する多様なデータが取得できるようになってきました。

本発表では、Looker と Gemini の活用から何がどのように「見える」ようになってきたかを概観します。

日本大学

1889 年に創立した日本法律学校を前身とする私立大学。

魅力のある真の総合大学として、教育・研究活動をはじめ、医療、生涯学習など、社会の発展に貢献すべくさまざまな活動を展開している。

約 95,000 人
学生・生徒数
(付属校含む)

16
学部数

18
キャンパス数

約 4,000 人
教職員数

※ 2024 年 5 月 1 日時点

事例資料はこちら ▶

<https://goo.gl/jirei-nichidai>



2022 年に教学 DX 戦略委員会を設置してから、在校生・教職員の分だけデータがある＝世界最大級のデータ駆動型教育機関になれるという意気込みで着手してきました。単にシステム同士をつなぐのではなく、利用者である学生や教職員が有効活用できるよう、有機的な連携をいかに構築できるかが今後重要になると考えています。

日本大学
教学 DX 戦略委員会 委員長
中村 文紀 氏

課題

在学生・教職員計 10 万人以上のデータがサイロ化し、有効活用できていない

- 1 種類や形式がバラバラだった本部、各学部のデータを Google Cloud に集約
- 2 AI 分析、可視化したデータを、10 万人以上が利用可能に
- 3 オープンソース型 Canvas LMS との連携で、一人ひとりに合わせたオーダーメイド型教育の実現へ

仮説立案・データ収集

前処理・変換

蓄積・管理

分析・判断・AI

利活用

